

アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は 96%、現存数は 1.5 であり、絶滅危惧 I B 類に相当する。
愛知県のヤンマ科の中で最も絶滅に近いのが本種である。



♂. 長久手町三ヶ峯, 2004 年 6 月 5 日, 高崎保郎 撮影

【形態】

全身が鮮やかな黄緑色で、ずん胴型の、やや大型のヤンマである。
和名は全身が黄緑 (= 青) 色であることに由来する。

【分布の概要】

- 【県内の分布】
尾張～三河の平野部を中心とした 34 市町村で記録されている。
- 【国内の分布】
北海道中部から九州中部にかけて分布し、対馬等の離島でも記録されている。
- 【世界の分布】
朝鮮半島、中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに平地から丘陵地にかけてのヨシなどの抽水植物が多生する池沼で見られる。未熟成虫は、ほとんど移動しないようで、成熟成虫と同様、ヨシ原などで見られることが多い。幼虫は、ヨシなどの植物につかまっている。
成虫は 5～6 月に羽化し、成熟成虫は 7 月を中心に生殖行動を行ない、8 月頃まで見られる。幼虫で越冬し、翌年羽化する。

【現在の生息状況／減少の要因】

2000 年以降、県内のヤンマで最も減少したのが本種である。尾張から三河の平野部を中心に広く分布していたが、現在県下で確実に姿を見られるのは、西尾市 (旧一色町) の佐久島だけである。また、佐久島のある三河湾に面する市町で、ごく希に本種が確認されることがある。しかし、継続的に確認できないので、佐久島からの飛来個体である可能性が考えられる。

本種は、ヨシやガマが密生した池沼を代表するトンボである。しかし、平地にあるそのような池沼は、埋め立てられるなど環境破壊を受けやすい。また、アメリカザリガニが増えると本種の幼虫が捕食されて絶滅することもあり、実際常滑市のベッコウトンボの生息地では、ザリガニの大発生に伴い、本種も絶滅した。佐久島に現存する本種の発生地にはアメリカザリガニが侵入しておらず、また周囲からの有毒な農薬の混入もない状況にある。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域、および成虫の産卵場所となる抽水植物の確保
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の草地の確保
- 3) 本種が生息する池沼の生態系を破壊する外来魚やアメリカザリガニの移入禁止

【特記事項】

同属のネアカヨシヤンマが黒っぽい体色をして、主に薄暗い朝夕を中心に活動するのに対し、本種は明るい黄緑色の体色をして、日中を中心に活動する点是对称的である。

(吉田雅澄)

県内分布図

